



## §1 芝の種類とその特性

日本で主に使用されている芝は、暖地型芝が多く、特に日本の気候に適した品種が使われています。以下は、日本で一般的な芝の種類です。

### 暖地型芝（日本で多く使われる芝）

#### 高麗芝（こうらいしば）

日本で最も一般的な芝で、日本芝とも呼ばれる。耐暑性と耐寒性があり、刈り込みや手入れに強い。ゴルフ場、庭園、家庭の庭など広く利用されている。硬めの葉を持ち、密度の高い芝生を形成する。

#### 野芝（のしば） <品種>・ゼニス・TTSノシバ・たねぞう

日本固有の芝で、昔から多くの場所で使用されてきた。

強靱で管理がしやすい。特に公共の公園や河川敷、道路沿いに多く使われる。乾燥や踏圧に強く、自然の芝としても見られることが多い。

#### バミューダグラス <品種>・ティフトン419

スポーツフィールドやゴルフ場で使用されるハイブリッド芝。

耐久性が高く、高温多湿な日本の夏にも強い。

野球場やサッカーフィールドなどでよく見られる。

#### 姫高麗芝（ひめこうらいしば）

高麗芝の中でも、細かい葉を持つ品種。

美しい外観を保ちやすいため、庭園やゴルフ場のグリーンに使用されることが多いです。



### 寒地型芝（寒冷地向け）

ケンタッキーブルーグラス <品種>・ニューブルグラス・レジェント・ハイディ・リムジン・ムーンライト  
北海道など寒冷地に適している。美しい青みがかった緑を持つため、ゴルフ場や観賞用の芝として人気。

ライグラス（ペレニアルライグラス） <品種>・トルシヨン・ゲイター3・ゲイター5・フィエスタ5

寒冷地でも育ち、特に修復用や補助的に使われることが多い。一年中緑を維持できるため、観賞用やスポーツ施設で使用される。

### 芝生の手入れ

【エアレーション】：芝生に穴を空け、土壌の通気性や排水性をよくする作業です。

穴を空けて空気を入れることで芝生の根をほぐし、成長を促進させます。

【サッチ取り】：芝の刈カスや枯れた葉などが芝生に堆積し、層をなしたものをサッチと言い、サッチを取ることで、水はけを良くし、病害虫の発生を防ぎます。

【水やり・芝刈り】：定期的な水やりと芝刈りが必要です。芝生は水不足で枯れるので、天候に応じて水やりを行います。また、定期的に芝刈りを行うことで、光合成が活発に行われ、密度の高い美しい芝が出来上がります。

【目土入れ】：砂や土で芝生を覆います。目土を入れることで根の乾燥を防ぎ、芝の発芽を促します。

日本の気候は、南北に長いので、地域によって使われる芝の種類が異なります。暖地型芝は関東から九州にかけて多く見られ、寒地型芝は北海道や高地の地域で利用されることが多いです。手入れのしやすさや用途に応じて、適切な種類が選ばれます。

弊社は行政管轄公園管理やゴルフ場を中心に、芝の緑化管理、除草剤散布などの事業を行っております。それぞれの芝に適した資材のご提案をさせていただいております、お困りごとやご不明点などございましたら、ご用命ください。

## §2 いまさら聞きにくい農業の「単位」のお話

昔から日本では、農地の単位には、「歩(ぶ)」「畝(せ)」「反(たん)」「町(ちょう)」が使われてきました。これらは中国を起源として日本古来の「尺貫法」と言います。「尺貫法」は古くから利用されている計量法で、明治時代にメートル法が導入され併用されていたのが、1959年(昭和34年)からはメートル法に統一され、正式な取引や証明の中では、尺貫法は使用することが出来なくなりました。しかし、現在でも不動産業界、建築業界では慣例として使用されており、農業においても農地の面積や米の収量等では尺貫法の単位が使用されています。今月はこの尺貫法とメートル法の換算について紹介します。

「面積」不動産ではよくあの土地は〇〇坪との表現がなされます。1坪は約3.3㎡で、1歩と同じです。30坪(歩)で1畝(せ)となり、10畝で1反(たん)、10反1町(ちょう)となります。

㎡	坪(歩)	アール a	畝	反	エーカー	町	ヘクタール ha
1	0.30	0.01	0.010	0.001	0.0024	0.0001	0.0001
3.30	1	0.03	0.033	0.003	0.0008	0.00033	0.00033
100	30.2	1	1.00	0.100	0.024	0.010	0.01
99.1	30	0.99	1	0.1	0.024	0.01	0.009917
991.7	300	9.91	10	1	0.24	0.1	0.0991
4046.8	1224.17	40.46	40.8	4.08	1	0.408	0.4046
9917.3	3000	99.17	100	10	2.45	1	0.9917
10000	3024.9	100	100.8	10.08	2.47	1.008	1

「長さ」寸(すん)、尺(しゃく)、間(かん)が使用されます。

m	寸	尺(号)	間	インチ	フィート	ヤード	マイル
1	33	3.3	0.55	39.37	3.28	1.09	0.00062
0.303	10	1	0.1666	11.93	0.994	0.331	0.000188
1.818	60	6	1	71.58	5.965	1.988	0.00113
0.0254	8.382	0.8382	0.0139	1		0.0277	0.000016
0.3048	10.058	1.0058	0.1676	12	1	0.3333	0.0002189
0.9144	30.175	3.0175	0.5029	36	3	1	0.000568
1609.34	53108.4	5310.84	885.14	63360	5280	1760	1

「体積」特にお米の量を量る際に使用される単位で、容積と重量の両方を表します。特に1石(こく)は、大人一人が1年間に生きていくために必要な米の量(約150kg)のことを表し、加賀100万石は、百万人を養うことができる、土地を持っていたということになります。お酒の1合瓶は180ml入りが一般的ですが、お米の1合は重量で測るため、150gとされています。同じ「合」という単位を使っているのは、「1合枴」で測った場合に、液体のお酒と間に空気が入る米との違いと言われていたようですが、現在はそれぞれがこの単位で計算されていることが多いようです。

1勺(しゃく)	18ml	15g
1合(いちごう)	180ml	150g
1升(いっしょう)	1800ml	1.5kg
1斗(いっとう)	18L	15kg
1俵(いっぴょう)	72L	60kg
1石(いっこく)	180L	150kg

今回は、農業で使用されている単位について解説しました。現代では、公的な場面での使用が禁止されている尺貫法ですが、さまざまな業界の慣習として根強く残っています。これらの単位は農業現場でよく出てくるので、頭の中で換算できるようになっておくと、どれくらいの広さや長さのことを話しているのか、その規模感もイメージしやすくなります。民族としての長い歴史を持つ日本において、現在も、これらの単位が使われていることには、実用以上に伝統や文化としての意味合いも、あるかもしれません。